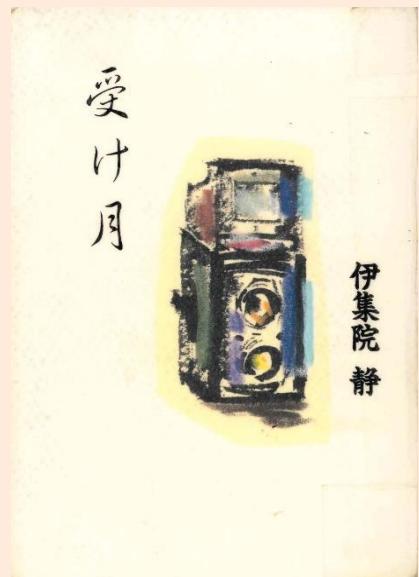


## 『受け月』 文藝春秋 伊集院 静／著

名門社会人野球チームを長年率いた老監督・鐵次郎(てつじろう)は、自身が育てた後輩から、監督の退任を告げられる。「自分の野球スタイルはもう古いのか?」と悩む中、迎えた引退試合の勝敗の行方は……。

野球に人生を捧げてきた鐵次郎だったが、孫娘や妻、チームの選手の思いに触れ、心に変化が生まれる。



表題作をはじめ、亡き夫が好きだった野球をする息子を心配する母親や、無口だが草野球をきっかけに常連客と打ち解けていく料理屋の店主など、野球にまつわる短編小説集。

第107回直木賞受賞。